

1. インデックスファイルの保存

メニュー[ファイル]-[インデックス]で、作業規定の準則の DM を参照してインデックスファイルを保存する際に、インデックスレコード(a)の「計画機関名」と「作業期間名」の空白が全角になっていたのを、半角で保存するように修正しました。



2. 面と線を三次元座標レコードで保存

新メニュー[DM から DM]-[面と線を三次元座標レコードで保存]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

作業規定の準則の DM(拡張 DM)ファイルから、作業規定とは異なる仕様の DM ファイルを作成します。

作業規定の準則の「数値地形図データファイル仕様」の「第95条」に、標高が同じ場合、属性数値に記録し、2次元座標で記録することになっています。この処理では、等高線以外の3次元の面(E1)線(E2)について、同一Z値の場合でも三次元座標レコードで保存します。

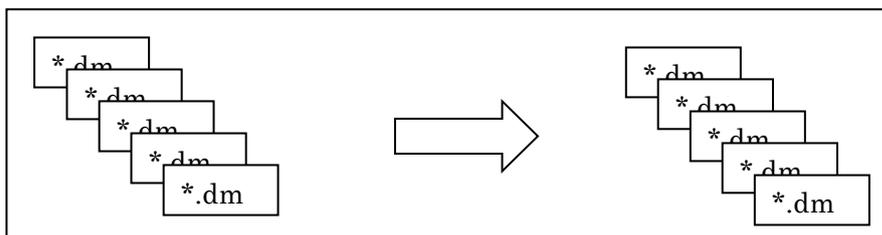
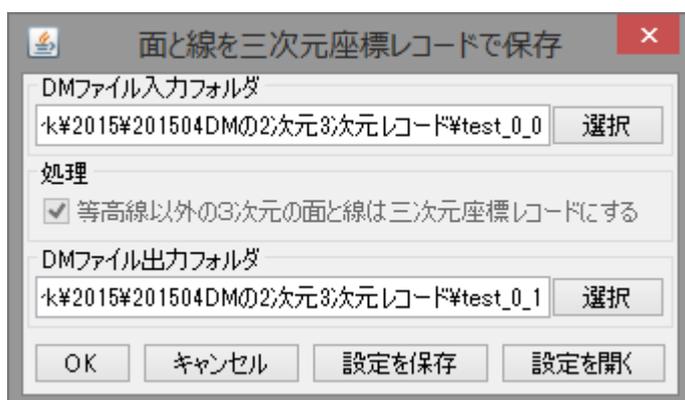
例えば、真幅道路が3次元で、Z値が全て同じ場合

通常 : 要素レコードの属性数値にZ値をセットし、二次元座標レコードで保存

この処理 : 要素レコードの属性数値は空白にし、三次元レコードで保存

となります。

等高線(分類コード=7101 から 7108)は二次元座標レコードで、Z値が同一ではない3次元の面(E1)線(E2)は三次元座標レコードで出力するのは同じです。



DM ファイル入力フォルダ

変換元の DM データファイルのフォルダを指定します。このフォルダの「.dm」を参照します。変換するのは作業規定の準則の DM のみです。

等高線以外の3次元の面と線は三次元座標レコードにする

処理内容を明示するためのチェックボックスです。チェックが入った状態になっています。

DM ファイル出力フォルダ

DM データファイルの出力フォルダを指定します。同じファイル名で作成しますから、入力とは別のフォルダを指定します。

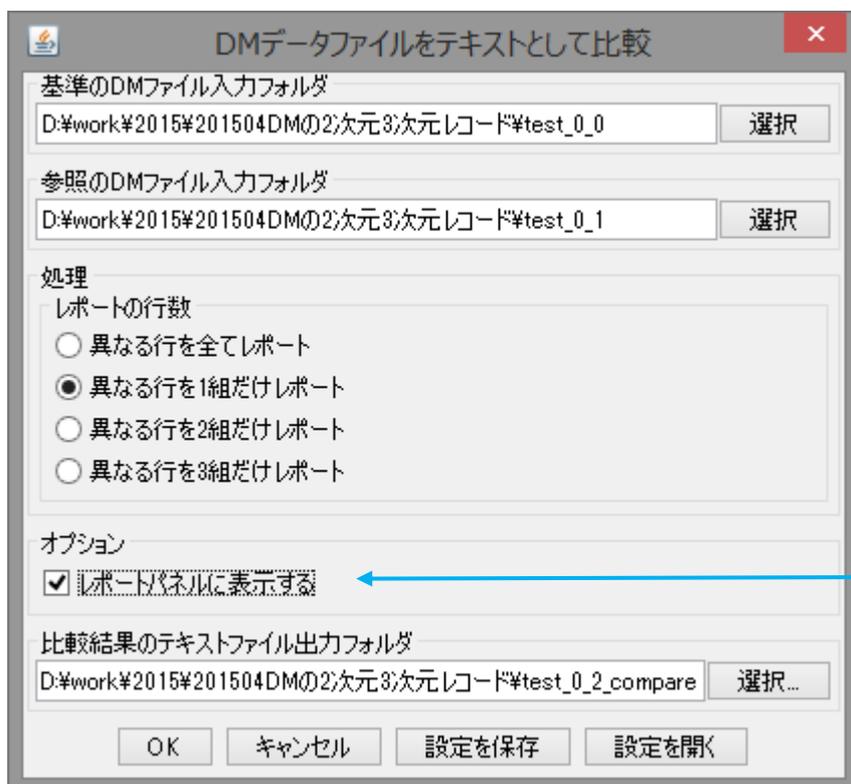
二次元座標レコードから三次元座標レコードに変更した要素数を分類コード別にレポートします。

分類コード=2101 真幅道路(街区線) 三次元座標レコードに変更した要素数=22
分類コード=2203 道路橋(高架部) 三次元座標レコードに変更した要素数=25
分類コード=2205 徒橋 三次元座標レコードに変更した要素数=4
分類コード=2214 石段 三次元座標レコードに変更した要素数=15
分類コード=3001 普通建物 三次元座標レコードに変更した要素数=23
分類コード=3003 普通無壁舎 三次元座標レコードに変更した要素数=1
分類コード=5101 河川・水がけ線 三次元座標レコードに変更した要素数=15
分類コード=5227 せき 三次元座標レコードに変更した要素数=3
分類コード=6101 人工斜面 三次元座標レコードに変更した要素数=25
分類コード=6110 被覆 三次元座標レコードに変更した要素数=13
分類コード=6301 植生界 三次元座標レコードに変更した要素数=21
分類コード=6302 耕地界 三次元座標レコードに変更した要素数=1
分類コード=7521 ブレークライン 三次元座標レコードに変更した要素数=133

ガイド レポート チェックリスト1 チェックリスト2 確認リスト 断面

3. DM データファイルをテキストとして比較

メニュー[DM から変換]-[DM データファイルをテキストとして比較]に、チェックボックス「レポートパネルに表示」を追加しました。



レポートパネルに表示する

異なる行の内容をレポートパネルに表示します。異なる行数が多いと、表示に時間がかかるので、OFF にしてください。

4. 要素リストアップ

メニュー[ツール]-[要素リストアップ]に「Z 値が全て同じ(水平な)面と線」を追加しました。



Z 値が全て同じ(水平な)面・線

水平な 3 次元の面(E1)と(E2)に限定します。2 次元あるいは水平でない面と線はリストアップの対象外になります。